

♣グリーン電力出資金出資者  
♣グリーンコープでんき利用者 の皆様

# グリーンコープでんき通信 VOL.30

2019年12月16日発行  
一般社団法人グリーン・市民電力



## “自然エネルギー”から学び続ける ～グリーンパワー小国合同会社第5期社員総会報告～

グリーンパワー小国合同会社は、地域活性化に取り組むローカルパワー(株)と、環境エネルギー政策研究所、グリーン・市民電力が社員となり、2015年に設立しました。小国町の豊かな自然エネルギーを活用した「馬洗瀬小水力発電所」(2017年1月に稼働)と杖立温泉熱バイナリー発電所」(2018年8月に稼働)を運営しています。その社員総会が2019年11月27日に行われ、二つの発電所の稼働状況などを確認し、自然エネルギーならではの課題について検討しました。

特に、杖立温泉熱バイナリー発電所の運転状況が思わしくなく、その原因追究ができていないのが実状ですが、対処していることの一つひとつを検証し積み上げていくことで経験値をアップしていく、これが自然エネルギーを上手に活用していくことにつながることを確認しました。

現在、二つの発電所の電気は、「グリーンコープでんき」の電源として活用されています。(※馬洗瀬小水力発電所は2018年11月から、杖立温泉熱バイナリー発電所は2019年2月から)

### ■杖立温泉熱バイナリー発電所

- ・温泉熱を利用した発電所は竣工後、順調に発電していましたが、2019年2月停止してしまいました。
- ・なぜ稼働しないのか、製造メーカーとのやり取りの中で、さまざまに策を講じてきたものの、原因究明はできませんでした
- ・次の段階として、第三者機関による検証を行いました。このままでは井戸への負担が大きいことから、発電プラントへ送る蒸気流量を調整することで井戸への負荷を抑えて安定的な稼働をめざすことにしました。
- ・日々の作業を行い、その詳細なデータの蓄積と分析を長期的に行っていくことで、あらゆる事象へ対応できるマニュアルを独自に作成する、という方針を今総会で共有しました。
- ・杖立温泉熱バイナリー発電所のような小型の発電機はこれまで実績が少なく、試行錯誤を余儀なくされているような状況です。この発電機は、大型発電機の専門のメーカーに造ってもらったもので、当然順調に稼働するものと期待していました。しかし、自然界にある泉源をうまく活用するためには、発電機(機械)とそれを動かす人間が自然界に寄り添い、自然エネルギーから学び続けることが如何に大切なことかをあらためて確認しました。

### ■馬洗瀬小水力発電所

- ・稼働してから3年、管理のノウハウも蓄積され安定した運転ができました。しかし、降水量の減少によって河川への流量も減ったことで当然発電量に影響しています。(平均稼働率は51%)
- ・取水口に堆積した土砂を除去することで安定した水量確保をめざすことにしています。



「原発フリー」をめざす“グリーンコープでんき”。それなのに、大手電力会社に支払う「託送料金（電線使用料）」には、原発に使われる費用が含まれています。それは不自然でおかしくないかと考え、九州電力にどうしてそうなるのか、お尋ねしています。そのお尋ねに関する進捗はありません。今後、取り組みがすすみ次第、その都度ご報告することにします。

27号からは、グリーンコープが訴訟に踏み出すことを決意した経過と脱原発への思い・願いが記された2019年度グリーンコープ共同体総会議案書「託送料金」からシリーズで紹介しています。

## 託送料金を問う～原発を無くしていくために～

…託送料金に含まれる問題を無くすために、裁判も辞さず、  
たくさんの組合員や市民が話し合い、取り組んでいきます…

— vol.4 —

《前号よりの続き》

2) これらは国民（電気を利用する人）皆が負担することから、いわば税金のようなものです。加えて、未曾有の大事故の対処や全国原発の廃炉と後始末ですから、国民皆の課題だとも言えます。

3) そして、国民皆が負担しあうようなお金は「税金」として、国会で法律で決められないといけないものです。そして、そのためには、全体像の情報開示や事故と事業の当事者の責任明示が求められるものです。

4) しかし、そのような動きは全くなく、経済産業大臣の命令である「省令」で全てが決められようとしています。ここに、この問題の極めて良くない本質が現れています。

(5) これらに関連して、私たちは、原発依存度が高い九州電力・関西電力・東京電力3社の設立以来の有価証券報告書を取り寄せ、こうした推移を調べてきました。今後、この結果に基づいて、国や大手電力会社への質問や意見をさらに届けていこうと考えています。

### 三. こうした問題について取り組んできたこと。これから取り組んでいきたいこと。

I. この3年間、私たちが知ったことをもとに国や大手電力会社に質問と疑問を

届けてきました。その結果をもとに、できる限り多くの組合員同士で話し合ってきました。

①この間、国（経済産業省に2回・文部科学省に1回）と大手電力会社（九州電力に7回・関西電力に2回）の質問を届け、それぞれに回答をいただき、九州電力と5回・関西電力と1回の説明の場を設けてもらいました。

②その内容を、組合員には機関紙「共生の時代」で、グリーンコープでんきの契約者とグリーン電力出資者には通信「グリーンコープでんき通信」でお伝えし、一昨年の秋以降の組合員のつどいや地域組合員総会の場では出会う組合員にお伝えし、組合員としてどう思うかの意見交換を行ない、活動する委員の間で学習会を開いて意見交換や検討を行ないました。また、原発に関する組合員アンケートを実施した単協もあります。多くの組合員間での意見交換となっています。

II. 以上に基づいて、本年1月10日、グリーン・市民電力から経済産業大臣宛に『陳情書（2020年4月から託送料金中に新たに「賠償負担金」「廃炉円滑化負担金」という原子力発電由来の2つの負担金を上乗せするのを止めてください。また、託送料金を本来定められた姿である「電線使用料（送配電網の維持に

係る費用に対するもの)』とするべく見直しを行ってください。』を届け、その話し合いを要請しています。大手電力会社へも同趣旨での検討要請を届け、話し合いを要請していきます。

- ①問題点の箇所で説明したとおり、法律に基づかず来年から新たな2つの負担金を上乗せすることを止めてもらいたい、現在の託送料金中にも原発費用が含まれていること等を見直してもらいたいという2つの内容のものです。
- ②経済産業省自身が大手電力会社に対して「託送料金についての新電力事業者からの問合せには適切に対応すること」と指針を出していることから、この話し合いを実現し、向き合ってもらいたいと考えています。
- ③大手電力会社はこれまでよく「国（経済産業省）が決めたとおりやっています」と回答してきました。しかし、その結果として事業を行い、利潤を得てきたのは会社自身です。事故や廃炉他の責任について、会社自身として考えるべき点があるはずです。そうした要請を届け、話し合いを実現し、向き合ってもらいたいと考えます。

Ⅲ. この問題をなくしていきたいという願いを、社会的に広めていく取組みを行います。

- ①政党や会派を問わず、全国の国会議員に資料を届け、こうした問題をきちんと国会で話しあってほしいと要請します。可能な限り、その事務所を訪問し、説明と意見交換を行いたいと思います。
- ②全国の電気事業者や生活協同組合にも資料を届け、こうした問題を考えていく呼びかけを行います。
- ③同じく、全国の新聞・マスコミにも資料を届け、こうした問題の報道を呼びかけます。

Ⅳ. また、訴訟を通して、法律的な（司法の）判断を得ることを目指します。

- ①国民には、国会（立法）・国や県市町村（行政）・裁判所（司法）の三権分立に基づく権利が保障されています。おかしいと思うことについて、国会も国も動かない時、裁判所におかしいと思うことの是非の判断を求めるといことです。
- ②それによって、多くの人たちがこの問題を知ることになるという意味もあります。
- ③裁判の内容について、現時点、次のようになりますと検討しています。

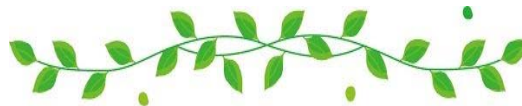
#### 1) 訴えの基本

- a. グリーン・市民電力が原告になり、エリア内の大手電力会社を被告として、「託送料金は大手電力会社に電線使用料として支払うものなのに、それに関係がない原発費用（賠償負担金と廃炉円滑化負担金）を上乗せするのを、法律で決めずに省令で決めているのはおかしい。その上乗せ分は払えない。」を求めること。
- b. グリーン・市民電力が原告になり、国を被告として、「電線使用と関係がない原発費用（賠償負担金と廃炉円滑化負担金）を上乗せした託送料金を認可していることはおかしい。その認可を取り消してもらいたい。」を求めること。

2) 時期的に、次の訴訟が可能、適切です。

- a. 2020年1月前後に、国を被告として「2つの新たな負担金を上乗せした託送料金の認可を取り消してもらいたい」とする行政取消し訴訟。

<次号に続く>



## ■グリーンコープでんき

・11月にグリーンコープでんきを供給した契約件数は、GC事業所、組合員契約件数、GC商品のお取引先も含め下表のとおりです。

生協名	GC事業所	組合員契約件数	容量(kW)
GC生協おおさか	8	47	247
GC生協ひょうご	10	22	168
GC生協とっとり	2	39	185
GC生協(島根)	1	79	356
GC生協おかやま	6	75	339
GC生協ひろしま	9	98	495
GCやまぐち生協	5	537	2,293
GC生協ふくおか	99	1,873	8,321
GC生協さが	17	106	656
GC生協(長崎)	11	153	703
GC生協くまもと	37	500	2,621
GC生協おおい	17	262	1,206
GC生協みやざき	2	131	489
GCかごしま生協	13	202	941
単協計	237	4,124	19,020
G・市民電力(低圧)	30		256
G・市民電力(高圧)	62		4,539
総合計	329	4,124	42,835

## ■11月の電源構成

### 【関西電力エリア】

神戸市環境局西クリーンセンター(燃料:一般ごみ)が発電した電気100%の電源構成となりました。

### 【中国電力エリア】

敦賀グリーンパワー(燃料:バイオマス)100%の電源構成となりました。

### 【九州電力エリア】

敦賀グリーンパワー(燃料:バイオマス)98.2%、熊本の馬洗瀬小水力発電所と杖立温泉熱バイナリー発電所を合わせて、1.8%割合での電源構成となりました。

※グリーンコープでんきは、電源となっている発電所をすべて特定しています。

※グリーンコープでんきの電源には、原発由来の電気は一切含まれていません。

## ■卒FIT 買い取り希望のみなさまへ

グリーン・市民電力では、卒FITを迎えられた家庭の太陽光発電の余った電気の買取受付を開始しました。お申込み順に郵送で「買取申込書」をお届けいたします。

買取申込をご希望される方は、所属の支部センターまでお問い合わせください。



## ■市民発電所

・グリーン・市民電力の発電所の2019年9月の実績です。9月は前年より約8万kWh多い発電量でした。神在・深年の出力制御は、11月に3回の指示があり停止しました。

発電所	出力(kW)	発電量(kWh)	売電額(円)
神在太陽光発電所	1,057	685,650	27,426,000
平池水上太陽光発電所	1,260	969,706	34,909,399
深年太陽光発電所	1,550	964,701	65,898,697
若宮物流センター	47	27,894	1,032,078
広島物流センター	47	31,213	1,154,881
やまぐち西部地域本部	54	38,456	1,269,048
グリーン未来ソーラ(10箇所)	244	249,859	5,247,039
合計	4,259	2,967,479	136,937,143

## ■グリーン電力出資金

・皆さんから出資いただいたグリーン電力出資金の総額(実際に振り込んでいただいた額)は、9億2,300万円になっています。  
・出資目標額(積立目標額)は、11月26日現在で11億1,849万円になっています。

生協名	申込人数	申込件数	出資目標額
GC生協おおさか	209	235	17,420,000
GC生協ひょうご	96	116	8,296,000
GC生協とっとり	135	148	10,860,000
GC生協(島根)	243	254	12,370,000
GC生協おかやま	146	162	12,650,000
GC生協ひろしま	653	758	74,847,000
GCやまぐち生協	584	676	43,900,000
GC生協ふくおか	5,453	6,321	533,586,000
GC生協さが	322	360	44,685,000
GC生協(長崎)	576	633	56,233,000
GC生協くまもと	1,486	1,684	125,234,000
GC生協おおい	782	870	69,638,000
GC生協みやざき	294	331	29,025,000
GCかごしま生協	711	807	79,746,000
合計	11,690	13,355	1,118,490,000

グリーン電力出資金は、市民発電所の建設費に充てています。

2019年11月末支出総額は8億4,881万円で、残高は7,419万円になっています。市民発電所の建設は、継続して調査や検討をすすめています。

これまで出資いただいた金額	923,001,000
これまで支出した事業と金額	848,810,221
神在太陽光発電所、平池水上太陽光発電所、深年太陽光発電所、若宮物流センター、広島物流センター、やまぐち西部地域本部、グリーン未来ソーラー発電所、豊浦太陽光発電所、馬洗瀬小水力発電所、杖立温泉熱バイナリー発電所、ながわ小水力発電所(建設中)、しましま小水力発電所(準備中)、霧島太陽光発電所(建設中)、熊本菊池太陽光発電所、国東第二自然電力太陽光発電所	
グリーン電力出資金の残高	74,190,779